

酒吞童子山地域の こけ植物・地衣類群落



地衣類が少なくこけ植物がかなりの広がりを示しています

地衣類サルオガセの仲間

地衣類の中で、各地に生育し大気汚染に特に弱いとされるのがサルオガセの仲間です。本地域の谷部の庭園にはサルオガセの仲間のアカヒゲゴケが葉状地衣と共に良好に生育し、まれにしか見ない胞子をつくる器官(子器)を付けていました。しかし、尾根部では確認されていません。



タカネカモジゴケ群落



アカヒゲゴケの子器付き標本



谷部の庭園に生育するアカヒゲゴケの子器付き個体

尾根部の樹皮に着生するこけ植物・地衣類群落

こけ植物群落：尾根部の幹には、タカネカモジゴケ群落が見られます。地衣類を伴うことは普通ですが、種数や広がりが小さいことで区別しました。こけ植物を主とした樹皮着生群落は尾根部に沿って広く分布しています。

地衣類群落：ヒモウメノキゴケ・トゲナシカラクサゴケ群落は幹から太枝にかけて広がります。ヒモウメノキゴケは、広くブナ林に分布する種です。なお、県下の山地ではトゲナシカラクサゴケよりはナメラカラクサゴケが普通です。この他、ウチキウメノキゴケやクイシウメノキゴケなど葉状地衣を伴っています。固着地衣ではセスジモジゴケ、ヘリトリモジゴケやトリハダゴケ属などが見られます。しかし、地衣類の発達した群落は立木の中でも少なく、場所も部分的です。

このように、こけ植物群落が広がり、発達した地衣類群落は限られています。

地衣類からのメッセージは

酒吞童子山は、標高1180m、九州中部において、南西に面した一角にそびえる山です。このため、風向きによっては、東シナ海からの気流を直接受けることが予測されます。

一方、この尾根部は、ブナ帯に属しており、樹皮を中心に発達した地衣類群落が期待される場所です。ところが、種類や種の広がりを見ると、良好とはいえません。

地衣類は、大気汚染に対しとても敏感(弱い)に反応します。近年、地球規模の大気汚染が論じられており、地衣類は汚染の程度を診断する優れた指標植物として注目されています。しかし、本地域だけでなく全国レベルでも、地衣類の生育資料は極めて少ないのが現状です。そのため以前との比較を根拠にしたコメントが出来ない状態です。(写真内の目盛りは、いずれも1mmです)



ヒモウメノキゴケ・トゲナシカラクサゴケ群落



ヒモウメノキゴケ



トゲナシカラクサゴケ



セシモジゴケ



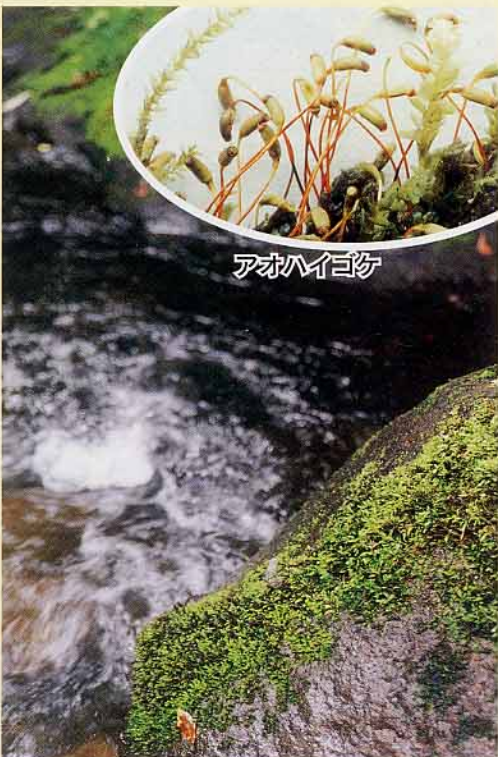
ヘリトリモジゴケ

岩上のこけ植物・地衣類群落

酒呑童子山を源とする溪流辺の岩上には、こけ植物を主とした群落が発達しています。この中で、水際にはアオハイゴケが岩にしっかりとくっついており、県下に広く分布する群落です。水際を離れた上方にはハネヒツジゴケ群落が見られコモチモミチツメゴケなど地衣類を伴うこともまれではありません。

林内の岩上には、クロミヤマスナゴケやチヂミバコブゴケが優占しています。

一方、尾根林内の岩上には、高さ約2mm、マッチ棒を小さくしたような形の地衣類カムリゴケの群落が見られます。



溪流辺のアオハイゴケ群落



チヂミバコブゴケ



コモチモミチツメゴケ



林内岩上のカムリゴケ